

「新潟のソーシャルキャピタルを考える会 2017」を開催しました

平成 29 年 2 月 19 日（日）に、新潟医療人育成センターセミナー室において、「新潟のソーシャルキャピタルを考える会 2017（共催 地域医療 Niigata フォーラム）」を開催しました。

この会は私たちの取り組みのひとつである新潟の中山間地自治体への大規模アンケート調査の、メインテーマであるソーシャルキャピタルについて、その結果報告と知識を深めようというイベントで、今回が 3 回目の開催となります。

一般口演①では、学生による報告として、「新潟市内のたばこ販売場所へのアクセスと高齢者の喫煙行動の関連」、「魚沼市『生活環境と健康についての聴き取り調査』実施報告」、「じょんのび合宿報告」の 3 題の発表がありました。地域のアンケートデータを使って地理的要因を含んだ解析、訪問調査で得られた見識を生かした仮説検証、地域の指標を使った地域診断の取り組みといった、学生の目線ならではの興味深い発表でした。

一般口演②では、大学・自治体からの報告として、「高齢者の睡眠の質と地域環境との関連」、「十日町市高齢者アンケート調査データを活用した地域診断ワークショップの取り組み」、「地域健康度の「見える化」に向けた新潟市の取り組み」の 3 題の発表がありました。大学と調査協力各自治体とが連携して行った調査・実践の取り組みを聞くことができました。



教育講演として、みなみらいプロジェクト代表の本間智美さんから、「クリエイティブに拓く健康健全な未来」と題して、新潟市南区にある元洋品店「天昌堂」を拠点に展開する健康・健全なまちづくりのプロジェクトについてお話をいただきました。現代アートの目線を取り込むことによってまちづくりを行い人のつながりを生み出す新たな試みを紹介していただきました。



特別講演では、千葉大学予防医学センター社会予防医学研究部門および国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター老年学評価研究部長の近藤克則先生から、「ソーシャルキャピタルと地域医療」と題して、健康格差が拡大する現代においてソーシャルキャピタルが健康づくりにどんな役割を果たすのか、また地域医療の現場でソーシャルキャピタルの考え方をどう生かすのかといったお話を、各種データや実践例を交えてご紹介いただきました。



今回で3回目になるこの会で、社会的な要因が健康にいかに関わっているか、その中でもソーシャルキャピタルが重要な役割を果たしているかを改めて確認することができました。どの医療者も必要とするこのソーシャルキャピタルの考え方を、より多くの関係者に知ってほしいという実感を抱きました。